

かほだより

R8-7号
R8.9.10

長野県伊那家畜保健衛生所

〒396-0026 伊那市西町 5764

Tel : 0265-72-2782, Fax : 0265-72-2765

E-mail : inakachiku@pref.nagano.lg.jp

URL : <http://www.pref.nagano.lg.jp/inakachiku/>

伊那諏訪家畜産物衛生指導協会

Tel&Fax : 0265-76-8086

暑熱の影響は秋に現れる！

牛群の健康状態を見直しましょう！

今夏も厳しい暑さが続きました。

暑熱ストレスの影響は夏季だけでなく、秋以降になって繁殖成績の低下や乳房炎、蹄病の増加などとして現れることがあります。暑熱ストレスは採食量の低下や免疫機能の低下を引き起こし、生産性や健康状態に大きな影響を及ぼします。

各種データを活用して牛群の状態を振り返り、必要な対策につなげましょう。

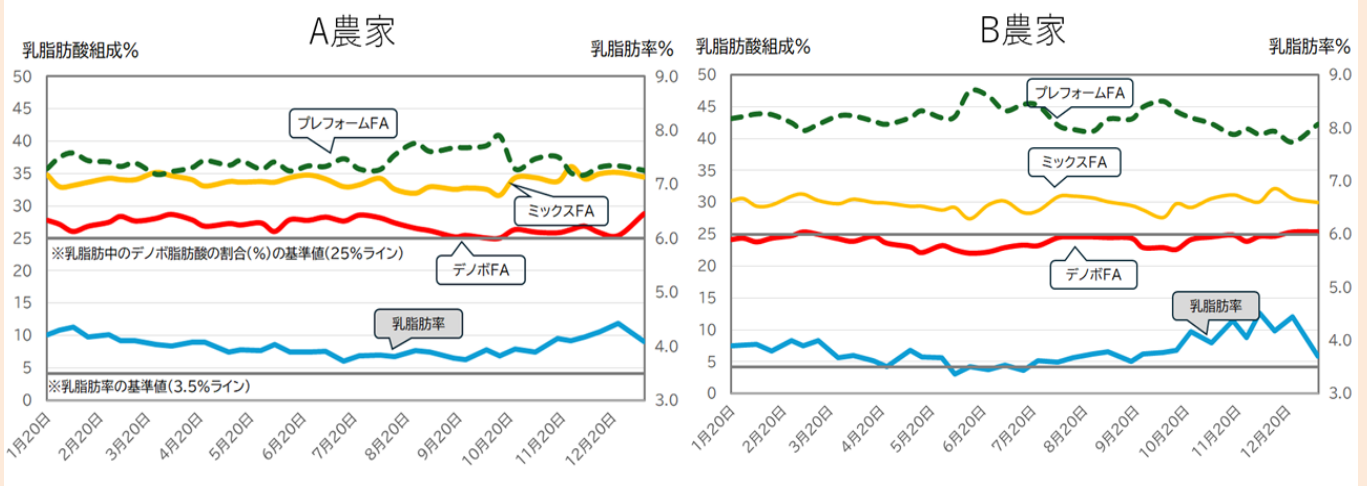
Step1 バルク乳検査旬報を活用した振り返り

バルク乳検査旬報から、暑熱期における飼養管理や栄養状態を振り返りましょう。

- ✓ 乳脂肪率が3.5%以下となった時期はなかったか？
- ✓ P/F比（乳蛋白率÷乳脂肪率）が0.9以上となった時期はなかったか？
- ✓ 乳脂肪酸組成を確認し、ルーメン環境や飼料内容を再評価しよう！

※暑熱期には採食行動の変化やルーメン機能の低下が生じやすいため、秋以降の飼料設計の見直しに役立てましょう。

（事例）暑熱期を乗り切った農家、影響を受けた農家 ～乳脂肪酸(FA)データの比較～



【A 農家】

乳脂肪率は3.8%前後で推移し安定。

デノボFAは25%以上を維持し、ミックスFAも概ね安定していることから、ルーメン発酵やエネルギー状態は比較的良好。

【B 農家】

乳脂肪率は春から初夏にかけて低下し、同時期はデノボFAが25%を下回る状態が継続。

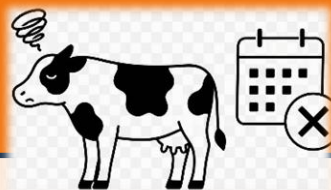
ルーメン発酵の低下や粗飼料摂取量不足の可能性が考えられ、秋以降はデノボFAと乳脂肪率がともに回復した。年間を通じてプレフォームFAが高めで、体脂肪動員の影響も考えられる。

※バルク乳脂肪酸組成データの提供に関するお問い合わせは、各所属農協へお願いします。

Step2 長期不受胎牛への対処

暑熱ストレスは発情発現や受胎率に悪影響を及ぼし、その影響が秋以降まで持続することがあります。

- ✓ 空胎日数 **150 日を超えて**未受胎の牛を抽出
- ✓ 繁殖検診により卵巣および子宮の状態を確認
- ✓ 獣医師の診断に基づき対処を検討



(対応例)

- ・サイクル牛(発情周期が確認できる牛)：ショートシンク、オブシンク等
- ・非サイクル牛(発情周期が確認できない牛)：CIDR を活用した同期化処置

Step3 乳房炎の発生状況を確認

暑熱期には免疫機能の低下や環境中細菌の増加により乳房炎発生リスクが高まります。

- ✓ 暑熱期にバルク乳体細胞数 **20 万個/mL** 以上の状態が継続していなかったか？
- ✓ バルク乳細菌スクリーニング検査で黄色ブドウ球菌(SA)等の感染状況を確認
- ✓ 個体乳検査により高体細胞牛や感染牛を把握

(対応例)

- ・搾乳衛生の再点検
- ・乾乳期治療の適正実施
- ・個体乳の細菌学的検査
- ・必要に応じて泌乳期治療を実施

※特に体細胞数が不安定な農場では、搾乳手順やライナー交換時期などの基本管理を再確認しましょう。

Step4 蹄病の予防と早期発見

暑熱ストレス下では採食パターンの変化や長時間の起立が生じやすく、蹄葉炎や蹄底潰瘍などの蹄病リスクが高まります。また、飼料内容、牛床環境、過密飼養なども重要な発生要因です。

- ✓ 跛行牛の有無
- ✓ 蹄冠部の腫れがみられる牛の把握
- ✓ 過長蹄や蹄形異常の有無

(対応例)

- ・定期削蹄および治療削蹄の実施
- ・過長蹄牛の早期処置
- ・蹄底潰瘍等が疑われる場合は削蹄師や獣医師へ相談



※蹄底潰瘍や白帯病などの蹄病は、早期発見・早期処置が重要です。重症化すると趾間関節炎や深部感染へ進行し、生産性の低下や淘汰につながる場合があります。

家保からのお知らせ

伊那家畜保健衛生所では、バルク乳成績の解析、牛群ドック(血液生化学検査、飼料分析、飼養管理調査)、乳房炎検査等を通じて牛群の健康管理を支援しています。

「**受胎率が伸びない**」「**体細胞数が高い**」「**跛行牛が増えた**」など気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。 【担当:(保健衛生課) 清水、岩本、松浦】